

研究活動 森崎雅好						
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又 は発表 の年月	発行所、発表雑誌又 は発表学会等の名称	概 要	編者・著者名 (共著の場合の み記入)	該当頁数
(著書) 1. ひきこもりと子ども・若 者育成支援	共著	2012. 4 (平成24年4月)	伊藤良高・永野典 詞・大津尚志・中谷 彪編『子ども・若者 政策のフロンティ ア』晃洋書房, 2012	2010年に「子ども・若者育成支援推進法」が 施行され、ひきこもる若者にも法的な根拠を もつ支援が可能となった。ひきこもり者は、 69万6千人いると推定されており、その支援 は喫緊の課題である。ひきこもり支援には、 ①思春期の自立過程を支えるための心理社会 的な支援が欠かせないこと、②ひきこもりの 本質的な問題は、社会や人間関係からの「回 避」という行動化の問題であること、③「回 避」によって失われた「関係」をつなぎ直す ことの3点に留意しなくてはならない。法整 備がなされたことによって、訪問支援（アウ トリーチ型支援）が可能となり、地域のネッ トワークを活用しながらより細かな支援が期 待できる。具体的には、①来談・訪問による 他者との出会いの段階、②個別支援の段階、 ③集団との再会段階、④社会参加の試行段階 の4段階を本人の状態に合わせながら進んで いくことになる。ただし、社会的場面の不 安や恐怖が極度に強いことに留意しながら、 少しずつ焦らずに寄り添っていくことが重要 である。	伊藤良高 永野典詞 大津尚志 中谷彪	63-70
2. 自死と向きあう - 自殺防止のためにできること -	単著	2014. 3 (平成26年3月)	和歌山人権研究所	自殺防止のために私たちができることは、ま ずは、自死について知ること、偏見をなくす ことである。死を考える方の特徴を知り、自 分のできることを考えることが自殺防止につ ながる。和歌山県白浜町三段壁は、観光名所 であると同時に「自殺の名所」としても有名 なところである。自殺が頻発する場所はホッ トスポットと言われるが、この地での保護活 動、インタビュー調査及び心理検査の結果か ら、死を考えてこの地を訪れる理由には、 「死の確実性」、「郷愁の念」、「死後の配 慮」、「存在の消失」があることが示され た。また、抑うつ傾向に加えて、思考の混 乱、自尊心の低さ、情緒的な孤立感がみられ た。このような点を理解しながら、「人、場 所、時間」を提供し、いつでも相談にのるこ とができる家族的支援を提供することによっ て人生をやり直すことは可能である。まず は、死にたいという気持ちを「聴き」、何が できるのかを考え、個人個人の意識を高める ことで、自殺防止活動が広がる。		
3. はじめての「密教的生き 方」入門	単著	2015. 3 (平成27年3月)	セルバ出版	本書は真言密教の教えを日常の生活で活かし たいと考えている方々への入門書である。真 言密教はお釈迦さんが開かれた仏教の教えを 根底に据えつつも、インド古来の宗教的世界 観を包含した壮大な世界観をもった教えであ る。この智慧の世界を理解するためには古代 インドの宗教的思索から学ぶ必要がある。本 書は第1章から第4章まではインドの古代の宗 教的世界観とそこから生まれた仏教、大乘 仏教、真言密教について概観する。 第5章では人生で出会う苦悩に対する真言密 教の教えの活かし方について解説する。特 に、グリーフケアの視点から、自分の大切な 人やものを喪失した時に生じる罪悪感や罪責 感、そして、自分の人生に虚しさを感じるこ とへの真言密教の教えの活かし方を記してい る。 第6章では日常生活で真言密教を活かすた めの心得を学ぶために『仏前勤行次第』につ いて解説している。		

<p>(学術論文)</p> <p>1. 長期留年学生の心理及び行動の特徴 ―ひきこもり経験のあるアパシー青年の事例とロールシャッハ・テストの結果を通じて―</p>	<p>単著</p>	<p>2010. 3 (平成22年3月)</p>	<p>高野山大学論叢第45巻</p>	<p>スチューデント・アパシーには、授業には出席せず留年を繰り返すが、アルバイトなど他の学生生活には問題がない部分的退却を示す者と、そのまま下宿や自宅に引きこもる全体的退却を示す者がいることが指摘されている。この全体的退却は、現在社会問題化している「ひきこもり」の状態像と類似しているが、アパシーとひきこもり、部分的退却と全体的退却の質的異同についての検討はなされていない。本論考では、ロールシャッハ・テストを用いて、ひきこもり経験のあるアパシー学生の心理的特徴を示し、アパシーの部分的退却と全体的退却の違いを検討した。これまでの報告では、アパシー学生のロールシャッハ・テストの特徴として、体験型は運動型であること、知性優位で情動を排除していることが指摘されていた。しかし、本論考の事例のテストでは、体験型は色彩型であり、容易に情動の混乱が生じることが特徴的であった。この混乱を回避するために、ひきこもり状態を呈しやすくと考えられ、部分的退却者と全体的退却者には異なる心理的要因があることが示唆された。</p>	<p>71-86</p>
<p>2. 被災地の復興期の支援における僧侶の役割について ―福島県いわき市での生活支援相談員へのインタビュー調査を通じて―</p>	<p>単著</p>	<p>2013. 3 (平成25年3月)</p>	<p>密教学研究第45巻</p>	<p>災害時の宗教家の活動は、社会的救援としての公共性の高いボランティア活動が評価される。一方、布教伝道などの宗教色の強い宗教的救済は警戒される。このような宗教家に対する異なる評価が生じるのは、宗教家自身が被災地での自分の役割を把握せずに、人々の求めるニーズに合わない活動を行っているためと考えられるが、そのニーズそのものが明確ではない。そのため本論考では、復興期に求められる宗教家(仏教僧侶)の役割を把握することを目的として、福島県いわき市にて生活支援相談員を対象としたインタビュー調査を行った。KJ法を用いてインタビュー記録を分析した結果、僧侶への期待として、被災住民を対象とした茶話会の開催と力を与える講話が、また、僧侶への期待の背景にある僧侶のイメージには、救済者のイメージや、安心を与え、受容する人格者というイメージがあることが明らかとなった。受容のイメージには、傾聴してくれる存在として認知されていることが明らかとなった。僧侶の役割として、傾聴は当然のこととして、講話が求められていることが示された。</p>	<p>15-30</p>
<p>3. 自殺ハイリスク地で保護された自殺ハイリスク者の心理的变化の検討-事例及びMMPIの検討を通じて-</p>	<p>単著</p>	<p>2014. 3 (平成26年3月)</p>	<p>高野山大学論叢第49巻</p>	<p>同一地点で自殺が複数発生する地点を我が国では自殺ハイリスク地と呼称している。本研究は、自殺ハイリスク地で自殺の保護活動を行っているNPO団体に保護された自殺念慮者(自殺ハイリスク者)へのインタビュー及び心理検査を通じて、保護時から自立時の心理的变化を検討した。この事例では、自殺ハイリスク地に至るまでに金銭や家族をなくし、経済的にも精神的にも追い詰められた状態であった。保護後、団体の提供する共同生活を通じて、自殺念慮が消失し自立するに至った。インタビューでは、保護時には生きる希望を無くした状態であったが、新たな希望を見出し、人生をやり直す力が湧いたことが語られた。また、自立時の検査結果では、抑うつ傾向、孤立感の低下、自尊心の向上がみられた。本事例は社会的な支援を通じて、自殺念慮を消失することが可能であることを示し、また、支援時に配慮すべき心理的特徴(抑うつ傾向、孤立感、自尊心低下)を示し得たものと思われる。</p>	<p>113-135</p>

<p>4. 非敵意的フラストレーション状況における中学生の反応的攻撃表出者の内的特徴：中学生用攻撃性質問紙(HAQ-S)とP-Fスタディを用いて</p>	<p>単著</p>	<p>2016. 3 (平成28年3月)</p>	<p>応用教育心理学研究 第32巻2号</p>	<p>教育現場では、フラストレーション状況からは、なぜ生じたのかを理解することが困難な攻撃行動を表出する者がおり、表出者への対応に苦慮している。本研究は中学生を対象として、フラストレーション状況で表出される攻撃行動を反応的攻撃と捉え、その生起の理由を理解することが困難な攻撃行動を表出する者の内的特徴の一側面を明らかにすることを目的とした。内的特徴の測定には中学生用攻撃性質問紙(HAQ-S)を用い、状況設定にはP-Fスタディの24場面の内、反応的攻撃が表出され難いと考えられる欲求阻止者の意図が非敵意的と評定された場面を複数選定した。これらの場面群での反応的攻撃の表出者と不表出者のHAQ-Sの各因子の尺度得点の平均値の差の検定を行った。その結果、男子の表出者は不表出者に比して「敵意」が高いことが示された。この状況での男子の表出者は、他者への否定的な信念が強く、他者の意図を敵意的に解釈しやすい特徴を有することが示唆された。</p>		<p>3-14</p>
<p>(その他) 1. 大切な人を自死で亡くされたご遺族の支援について</p> <p>2. 災害時支援における僧侶の役割</p>	<p>単著</p>	<p>2012. 9 (平成24年9月)</p>	<p>『センタージャーナル』 真宗大谷派名古屋教区教化センター</p>	<p>自死遺族支援で重要なことは以下の3点である。①ご遺族の悲しみへの共感と傾聴②自殺(自死)への真摯な態度と理解しようとする態度③自分自身の死生観の問い直し、である。共感と傾聴をするためには、自殺についての理解を深め、知識を得る努力が必要となる。なぜなら、ご遺族は「なぜ」に苦しむからである。この「なぜ」を共に考えていく作業が、喪の作業の過程であり、それを支えるのが支援者の役割である。また、そのためには、自らの死生観についてや、「死」という現象について深く洞察しておくことが共感と傾聴の下地となる。一方、ご遺族の心理的特徴も理解も重要である。特に、否認、罪悪感と罪責感、恥と孤立、葛藤、抑うつ5つの心理状態への配慮が求められる。ご遺族の心理状態に配慮しながら寄り添う姿勢が支援者には求められる。</p>		<p>5-7</p>
	<p>単著</p>	<p>2013. 1 (平成25年1月)</p>	<p>『高野山時報』 平成25年新春合併特集号</p>	<p>災害時支援における僧侶の役割として、まず、被災された方々が復興の過程で、孤立してしまうことがないように、皆で交流する場としての茶話会の開催が求められていること、そして、辛く悲しい体験をされた方々に寄り添う傾聴と、未来に向かって歩むための力を与える講話が求められている。また、支援活動を行うにあたっては、以下の3点が重要と思われる。①活動の継続性を心がけること、②防災や災害時の知識、社会福祉や心のケアの知識の習得を常日頃から行うこと、③平時から社会貢献活動を行い、地域の団体や行政機関と連携し、信頼関係を作っておくこと、である。特に、③については、混乱期には許容されていた宗教家の活動も、復興期には敬遠されやすいため、無用な誤解や警戒感を抱かれないように、平時からの信頼関係の構築が重要となろう。</p>		

<p>3. 自死念慮者への取り組み ー“死にたい”気持ちに寄り添うー</p>	<p>単著</p>	<p>2013. 3 (平成25年3月)</p>	<p>『人権啓発推進資料』 高野山真言宗社会 人権局</p>	<p>「死にたい」という気持ちに寄り添うためには、以下の3点が重要となる。①自殺（自死）への真摯な態度と理解しようとする態度、②自分自身の死生観の問い直しの作業、③ご遺族の悲しみへの共感と傾聴する態度の3点である。年間3万人が自らのいのちを断っているが、いまだ、自殺についてわかっていることはほとんどない。ただし、心理的に死ぬことしか考えなくなる状態（心理的視野狭窄）に陥っていること、その背景にうつ病が関係していることは明らかになってきている。うつ病について理解すること、そして、もし「死にたい」と打ち明けられたら「逃げない」「恐れない」という姿勢が求められる。また、誰でもよいから「死にたい」と打ち明けたのではないこと、「死にたい」という言葉の背景には、「生きたい」という切なる願いがあることを理解しなくてはならない。知らないことが一番の無関心である。もし打ち明けられたら、共に考え、しかるべき支援者や支援機関につなぐことが重要である。</p>		
<p>4. セーフティネットへの参画ー誰にでもできることー</p>	<p>単著</p>	<p>2015. 11 (平成27年11月)</p>	<p>『人権啓発推進資料』 高野山真言宗社会 人権局</p>	<p>私たちの社会には、人権を遵守し、生活を送る上で、個人が不当な不利益を被らないように互いを助け合うための種々の制度がある。これらの制度はまだ完全とは言いきれないものの、社会の中に「当然」のようにあるわけではなく、日本国憲法の第九十七条にも記されているように、社会を構築してきた先人たちの努力の結果である。そのため、常に、制度について吟味し、不備があれば改善や改革をし続けなくてはならないものである。今ある制度もその時の社会の構成員の雰囲気、考えによって、いくらかでも変化していくため、私たちが社会の出来事について無関心という態度を取り続ければ、例え善き制度であっても変化し続ける社会に対応できない制度に変質してしまう。その社会に生きているだけで不利益を被り、困難に陥った時に助けを得られない社会で生きることには希望を見出すことはできないだろう。だとすれば、私たちに、社会に参画する責任があり、まずは、できることから社会に参画することで、互助のシステムがさらによきものになるだろう。</p>		
<p>〈口頭発表〉 1. 遠隔カウンセリングの可能性（Ⅱ） Squiggleを通して</p>		<p>1997. 7 (平成9年7月)</p>	<p>日本カウンセリング学会第30回大会</p>	<p>双方向通信システムを用いテレビモニターを通じて遠隔地間でのカウンセリングの可能性を探るため、描画法のSquiggleを実際に対面式で行う場合と通信システムを用いた場合の2条件を比較した。システムの改善点として描画がモニターに表出されるまでに遅れがあること、相手との場の共有感が得にくいことがあげられた。一方対人緊張の高い人には相手が近くにおらず、描画もPC上で加工しやすいため、“遊ぶ”感覚が得やすいという利点もあげられた。</p> <p>今後の通信容量の増大PCツールの機能向上が遠隔地間でのコミュニケーションには必要であることが示され、カウンセリングへの応用や実用性が高まるものと思われる。</p>	<p>森崎雅好 岡部麻衣子 木村貴子 山下修一</p>	<p>216-217</p>

<p>2. 未知物の名称の獲得に及ぼす文脈の影響 —相互排他性バイアスを乗り越えるための要因の検討—</p>	<p>1998. 3 (平成10年3月)</p>	<p>日本発達心理学会 第9回大会</p>	<p>乳幼児が効率的に事物の命名を行い名称を獲得していくためのバイアスとして相互排他性（一事物一名称の原則）が指摘されている。しかし現実には、同一事物に複数の名称があり、後にこのバイアスは乗り越えなくてはならない。本研究ではこのバイアスを乗り越えるための要因を検討し、2つの要因を見出した。①他言語意識（他の言語があると考え同一事物に複数の名称をつける）、②対人方略（出会う他者との関係性において名称をつける。他者が増えれば、それに応じて、複数のラベルをつける。）。</p> <p>しかし、年長児より年少児に対人方略がみられ、年長児で他言語意識のあるものは、かえって複数の名称をつけにくく、その他の言語の中ではバイアスが存在していることが示された。さらに低年齢の乳幼児での検討が必要と考えられる。</p>	<p>森崎雅好 仲真紀子</p>	<p>135</p>
<p>3. 不注意と不器用さが目立つ女子大学生への臨床動作法の適用</p>	<p>2009. 10 (平成21年10月)</p>	<p>日本臨床動作学会 第17回学術大会</p>	<p>大学に通い始めてから、自分の忘れ物の多さ、不注意・不器用さの問題に気がついた女子大学生に臨床動作法を適用し、自己の問題と向き合うようになった過程を検討した。忘れ物・不注意の問題は、自己のからだのコントロール、注意の集中・維持の困難が背景にあると考えられる。動作課題を通じて筋肉の緊張と弛緩の訓練を行い、生活主体である“自分のからだ”のコントロール性を高めた。結果、忘れ物の訴えは、3ヶ月でほぼなくなり、自身が日々の生活で“今だけ”しか考えていないことに気付き、自分の問題に主体的に取り組み始めるようになった。</p>		<p>42-43</p>
<p>4. 場面緊張と背中への痛みを訴える男子大学生の心理的変化の検証 -MMPIの追加尺度を用いて-</p>	<p>2012. 9 (平成24年9月)</p>	<p>日本臨床動作学会 第20回学術大会</p>	<p>場面緊張と背中への痛みを訴える男子大学生に動作法を適用し、緊張と痛みの緩和がみられた事例において、心理的変化の客観的な検証をMMPIを用いて行った。その結果、MMPIの追加尺度群の精神病性、恐怖症、解離症状、敵意などにおいて著しい好転がみられ、身体症状の改善、情緒的混乱の改善が示された。一方、精神的遅滞、自我統制の欠如（認知面）では得点の上昇がみられた。動作法による自己のからだへの気づきは、身体化症状として表現された不安や混乱を、自己のこころを伴った情緒的体験として認識することを促したものと考えられる。</p>		<p>38-39</p>
<p>5. 被災地の長期的支援における僧侶の役割について —福島県いわき市でのボランティア活動とインタビュー調査を通じて—</p>	<p>2012. 10 (平成24年10月)</p>	<p>日本密教学会 第45回学術大会</p>	<p>福島県いわき市での支援活動と生活支援相談員を対象としたインタビュー調査から僧侶に求められている役割について検討を行った。KJ法を用いてインタビュー記録を分析した結果、僧侶への期待として、被災住民を対象とした茶話会の開催と力を与える講話が、また、僧侶への期待の背景にある僧侶のイメージには、救済者のイメージや、安心を与え、受容する人格者というイメージがあることが明らかとなった。受容のイメージには、傾聴が含まれており、僧侶の役割には、傾聴は当然のこととして、講話をすることが求められていることが示された。</p>		

<p>6. 中学生の非敵意的フラストレーション状況における攻撃反応表出者の特徴 —中学生用攻撃性質問紙(HAQS)とP-Fスタディを用いて—</p> <p>(文部省科学研究費補助金) 自殺ハイリスク地で保護された自殺ハイリスク者の特徴と支援の在り方について</p> <p>科学研究助成事業若手研究(B) 研究課題番号：23730682 期間：2011年4月～2013年3月</p>	<p>2013. 11 (平成25年11月)</p>	<p>日本応用教育心理学会 第28回研究大会</p>	<p>本研究は、攻撃行動の表出が予想しにくいフラストレーション状況において攻撃行動を表出する者の特徴を攻撃性の観点から検討を行った。中学生を対象として、P-Fスタディを用いて、非敵意的なフラストレーション状況を設定し、この状況下での攻撃反応表出者と不表出者の攻撃性の下位因子の尺度得点を比較した。その結果、男子の表出者は不表出者に比して「敵意」が高いことが示され、表出者は他者への否定的信念が強いことが示唆された。一方、女子では「敵意」と「身体的攻撃」に有意傾向がみられたが、表出者に明確な特徴は見いだせなかった。攻撃性質問紙では把握されていない要因があると考えられ、その要因を検討することが今後の課題である。</p> <p>本研究は、自殺のハイリスク地での自殺の実態解明のための研究、及びその成果を社会活動に還元することを目的とし、その地で保護された自殺のハイリスク者を対象として、以下の4点を行う。(1)自殺のハイリスク地で保護された「自殺行動の段階」にある者の心理状態及び性格特徴の把握、(2)自殺多発地点を選択した理由とその背景の解明、(3)社会復帰後の支援の効果及び、心理的变化の検証、(4)自殺多発地点で保護された方への心理社会的支援の在り方の提示</p>	<p>33-34</p>
--	---------------------------------	---------------------------------	--	--------------

所属	文学部	職名	助教	氏名	森崎雅好	大学院の授業担当の有無 (無)
教育活動						
教育上の主な業績		年月日	概 要			
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			<p>講義終了時に学生に出席表を配布し、講義内容についての感想または質問を記入してもらっている。次回の講義では、学生からの質問について答えるようにしている。</p> <p>また、描画法や箱庭療法などの心理療法について学ぶ講義では、視聴覚機材（パワーポイント等）を使用し、学生が理解しやすい講義となるように工夫している。</p>			
2. 作成した教科書、 教材、参考書		2012年4月	伊藤良高・永野典詞・大津尚志・中谷彪編『子ども・若者政策のフロンティア』（晃洋書房、2012）の「第8章 ひきこもりと子ども・若者育成支援」（pp. 63-70）執筆担当。			
		2014年4月	『自死と向き合う―自殺防止のためにできること・白浜での自殺防止活動を通じて（人権ブックレット 18）』阿吽社、2014（単著）			
		2015年3月	森崎雅好『はじめての「密教的生き方」入門』セルバ出版、2015（単著）			
3. 教育方法・教育実践 に関する発表、講演等		2002年10月	千葉県市原市 幼・小・保合同研修会 講演「発達障害をもつ子どもの理解とその対応について」			
		2004年7月	千葉県総合教育センター特別支援教育部研修講座 教職員夏期研修講座 「LD・ADHD児等の指導法―ソーシャルスキル・トレーニングの実際」（1日研修）			
		2008年2月	和歌山県伊都地方教育委員会 講演「危機管理と教頭の役割・教頭のヘルスケア―学校危機とCRTについて」			
		2009年11月	第51回 和歌山県学校給食研究協議大会 講演「心と体の栄養 食べることとコミュニケーション」			
		2010年8月	橋本保育園職員研修会講師 講演「こころとからだの栄養」			
		2010年11月	伊都地方人権教育研究協議 第6分科会 「登校拒否・不登校」講師			
		2011年8月	伊都地方学校保健協議会養護教諭研究協議会 講師			
		2011年12月	和歌山県立きのかわ支援学校現職教育研修 講師			
		2012年8月	平成24年度和歌山県道徳教育総合支援事業 「道徳教育講演会」講師			
		2012年10月～ 2013年1月	和歌山県自殺対策事業 「中学生向けこころの健康事業」講師（全3回） ※内閣府自殺対策推進事業室編 『地域における自殺対策取組事例集』平成25年5月に活動実績掲載 ※注記：他に小中学校での教育研修会、ひきこもり家族会、保健所などで講演多数。社会における主な活動を参照。			

4. その他教育活動上 特記すべき事項	1999年4月～ 2004年3月	千葉YMCA 軽度発達障害児支援プログラムの立ち上げ事業に関与、社会性指導クラスの開設、発展に寄与。 2007年2月 千葉YMCAより感謝状を贈られる。
------------------------	---------------------	---

学会等および社会における主な活動 森崎雅好	
所属学会	
平成9年7月(1997年7月)	日本カウンセリング学会 第30回大会口頭発表(発表のため臨時入会)
平成10年3月(1998年3月)	日本発達心理学会第9回大会ポスターセッション発表(発表のため臨時入会)
平成17年5月(2005年5月)	日本心理臨床学会入会
平成19年11月(2007年11月)	日本臨床動作学会入会
平成21年10月(2009年10月)	日本臨床動作学会第17回学術大会研究発表
平成22年6月(2010年6月)	日本教育心理学会入会
平成23年4月(2011年4月)	日本教育心理学会入会
平成24年9月(2012年9月)	日本臨床動作学会第20回学術大会研究発表
平成24年4月(2012年4月)	高野山同学会入会
平成24年10月(2012年10月)	日本密教学会第45回学術大会研究発表
平成25年10月(2013年10月)	日本自殺予防学会入会
平成25年10月(2013年10月)	日本応用教育心理学会入会
平成25年11月(2013年11月)	日本応用教育心理学会第28回研究大会 研究発表
平成26年4月(2014年4月)	日本スピリチュアルケア学会入会
平成26年5月(2014年5月)	日本スピリチュアルケア学会資格認定員会作業部会委員
①社会参加	
平成19年10月(2007年10月)	和歌山県こころのレスキュー隊CRT(クライシスレスポンスチーム)所属隊員
平成19年10月(2007年10月)	和歌山県精神保健センター 自死遺族支援相談員
平成21年4月(2009年4月)	和歌山県臨床心理士会 役員理事(自殺・メンタルヘルス担当理事)
平成21年4月(2009年4月)	和歌山県自殺対策連絡協議会委員
平成21年5月(2009年5月)	和歌山県精神保健センター 自死遺族わかちあいの会参加
平成22年4月(2010年4月)	母子支援施設わかくさ 母子相談スーパーヴァイザー
平成22年5月(2010年5月)	NPO法人白浜レスキューネットワーク(自殺防止・保護活動団体) 協力会員として、保護活動を行う
平成22年8月(2010年8月)	和歌山県立医科大学付属病院紀北分院緩和ケアチーム
平成24年4月(2012年4月)	高野山真言宗宗務所 メンタルヘルス相談員
平成25年4月(2013年4月)	高野山真言宗福祉委員
平成25年4月(2013年4月)	高野町適正就学指導委員会相談部会相談員
平成26年4月(2014年7月)	和歌山県人権施策推進審議会委員
注記：上記の活動は、全て現在も継続中	
平成23年9～平成24年3月 (2011年9～2012年3月)	台風12号による水害支援活動(和歌山県紀南地域)
平成24年7～9月(2012年7～9月)	東日本大震災支援活動(7月：福島・宮城・岩手、8月：福島、9月：福島)
②講演・研修会講師	
平成18年7月(2006年7月)	研修「教師のための教育相談」(高野町教育研究会・保健部会)

平成19年1月(2007年1月)	講演「子どものこころに寄り添って」(高野町婦人学級研修会)
平成19年4月(2007年4月)	九度山町婦人研修会 講師(九度山町役場 ふるさとセンター)
平成19年7月(2007年7月)	精神保健福祉関連新任者研修 研修会講師(和歌山県精神保健福祉センター)
平成20年2月(2008年2月)	伊都地方教頭会 「危機管理と教頭の役割・教頭のヘルスケアー学校危機とCRTについて」 研修会講師(あじさいホール)
平成20年6月(2008年6月)	那珂食生活改善推進協議会 講師(岩出保健所)
平成20年7月(2008年7月)	精神保健福祉関連新任者研修 研修会講師(和歌山県精神保健福祉センター)
平成20年10月(2008年10月)	ひきこもり家族会 研修会講師(和歌山県精神保健福祉センター)
平成20年12月(2008年12月)	紀北地方栄養士研修会 講師(岩出保健所)
平成21年2月(2009年2月)	「自死遺族のための講演会」講師(和歌山県精神保健福祉センター)
平成21年2月(2009年2月)	ひきこもり家族会 研修会講師(和歌山県精神保健福祉センター)
平成21年2月(2009年2月)	和歌山大学保健管理センター メンタルサポート新設2周年公開シンポジウム 「現代の若者の心の病理を考える-メンタルサポート室からの提言-」シンポジスト
平成21年3月(2009年3月)	岩出保健所「健康セミナー 思春期のメンタルヘルス」講師(和歌山県立貴志川高校)
平成21年6月(2009年6月)	精神保健福祉関連新任者研修 研修会講師(和歌山県精神保健福祉センター)
平成21年6月(2009年6月)	田辺地区公衆衛生研究会「動作療法について」講師(田辺市民総合センター)
平成21年10月(2009年10月)	高野山真言宗中国ブロック教師研修会「人権教育 人のこころ模様」講師(山口県)
平成21年11月(2009年11月)	いのちの電話相談員全国研修会 和歌山大会講師(和歌山県民文化会館)
平成21年11月(2009年11月)	ひきこもり家族会 研修会講師(田辺保健所)
平成21年11月(2009年11月)	和歌山県高等学校PTA連合会 講演会講師(紀の国アバローム)
平成21年11月(2009年11月)	第51回 和歌山県学校給食研究協議大会 講演会 講師(あじさいホール)
平成21年1月(2009年1月)	難病応援カウンセリング講座 ピアサポート研修会講師 (和歌山県難病・子ども保健相談支援センター)
平成22年2月(2010年2月)	精神障害者家族教室・精神障害者ボランティア教室研修会講師(御坊保健所)
平成22年6月(2010年6月)	精神保健福祉関連新任者研修会講師(和歌山県精神保健福祉センター)
平成22年8月(2010年8月)	九度山町ヘルシー大学(町民対象・メンタルヘルス) ※連続3回講義(8月・9月・10月)
平成22年8月(2010年8月)	橋本保育園職員研修会(橋本市)
平成22年8月(2010年8月)	和歌山県CRT研修講師(和歌山県精神保健福祉センター)
平成22年8月(2010年8月)	和歌山県看護業務研究会 研修
平成22年8月(2010年8月)	高野山大学いのちのセミナー講師(昭和女子大)※本学主催
平成22年9月(2010年9月)	九度山町ヘルシー大学(町民対象・メンタルヘルス) ※連続3回講義(8月・9月・10月)
平成22年10月(2010年10月)	九度山町ヘルシー大学(町民対象・メンタルヘルス) ※連続3回講義(8月・9月・10月)
平成22年10月(2010年10月)	第27回いのちの電話相談員全国研修会和歌山大会 講師
平成22年10月(2010年10月)	和歌山県精神保健福祉センターひきこもり家族教室 家族会研修会 (県内4ヵ所開催 橋本保健所10月 日高川町保健センター11月 御坊保健所11月 湯浅保健所12月)
平成22年11月(2010年11月)	自殺対策フォーラム:「みんなが安心して暮らせる「シェルター」を考える公開フォーラム -自殺のない社会を目指して-」(シンポジストとして参加)
平成22年11月(2010年11月)	伊都地方人権教育研究協議 第6分科会「登校拒否・不登校」講師
平成22年11月(2010年11月)	和歌山県自殺対策研修「看護職の立場からの自殺予防」 (精神保健福祉センター)
平成22年12月(2010年12月)	高野山大学いのちのセミナー講師(昭和女子大)※本学主催
平成22年12月(2010年12月)	「健康長寿のための地域・職域連携事業」メンタルヘルス研修講師 (有田川町ふるさとセンター)
平成22年12月(2010年12月)	メンタルヘルス研修講師(上富田町保健センター)
平成23年1月(2011年1月)	和歌山県看護協会田辺地区支部学習会講師(南和歌山医療センター)

平成23年2月(2011年2月)	和歌山県精神保健福祉センターひきこもり家族教室研修会(岩出保健所)
平成23年7月(2011年7月)	高野山大学夏季セミナー2011 講師 ※本学主催
平成23年8月(2011年8月)	伊都地方学校保健協議会養護教諭研究協議会 講師(九度山町中央公民館)
平成23年8月(2011年8月)	平成23年度難病患者医療相談事業 講師(橋本保健所)
平成23年8月(2011年8月)	21世紀高野山医療フォーラム ワークショップ講師(東京ビッグサイト)
平成23年9月(2011年9月)	和歌山県精神保健福祉センター「ひきこもり家族教室」講師(橋本保健所)
平成23年10月(2011年10月)	和歌山いのちの電話研修会講師
平成23年9～平成24年1月 (2011年9月～2012年1月)	高大連携事業 伊都高校 講義(全4回)※本学主催
平成23年11月(2011年11月)	和歌山県精神保健福祉センター「自殺対策研修」講師(ビッグ愛)
平成23年12月(2011年12月)	いのち♥大切シンポジウム「精神医学と宗教の対話」講師 (和歌山県商工会議所)
平成23年12月(2011年12月)	田辺保健所主催「精神障害者家族教室」講師(野の花亭:田辺市たきない町)
平成23年12月(2011年12月)	和歌山県立きのかわ支援学校現職教育研修講師(きのかわ支援学校)
平成23年12月(2011年12月)	高野山大学いのちのセミナー講師(昭和女子大)※本学主催
平成23年12月(2011年12月)	市町村保健師協議会 講師 (海南市保健福祉センター)
平成24年1月(2012年1月)	安楽寺(徳島県)「第52回教学講習会」講師(安楽寺)
平成24年2月(2012年2月)	有田市保健センター「メンタルヘルス講演会」講師(有田市保健センター)
平成24年2月(2012年2月)	平成23年度精神保健福祉ボランティア研修 講師(こころの郷クリニック)
平成24年2月(2012年2月)	白浜町民生課主催「ひきこもり講演会」講師(コガノイバイホテル)
平成24年2月(2012年2月)	高野山大学いのちのセミナー講師(昭和女子大)※本学主催
平成24年3月(2012年3月)	橋本保健医療圏地域・職域連携推進協議会 「メンタルヘルスセミナー」講師 (橋本市産業文化会館)
平成24年3月(2012年3月)	白浜町自殺対策強化月間イベント講演 講師(白浜町青少年研修センター)
平成24年5月(2012年5月)	いのちに向き合う宗教者の会「カウンセリング講習」講師(名古屋東別院)
平成24年6月(2012年6月)	和歌山県精神保健福祉センター 平成24年度傾聴研修 (自殺対策技術研修)講師 (御坊市役所)
平成24年6月(2012年6月)	和歌山いのちの電話研修会講師(ルミエール華月殿)
平成24年6月(2012年6月)	高野山大学同窓会和歌山支部 講演会講師(ビッグ愛)
平成24年7月(2012年7月)	高野山真言宗 平成24年度 自死者慰霊法会 講師(高野山大学黎明館)
平成24年8月(2012年8月)	平成24年度和歌山県道徳教育総合支援事業「道徳教育講演会」講師 (高野町中央公民館)
平成24年9月(2012年9月)	新宮保健所管内保健師研修会 講師(東牟婁振興局)
平成24年10月(2012年10月)	第12回癒しの環境研究会 全国大会(和歌山大会) 教育講演講師(和医大)
平成24年11月(2012年11月)	高野山真言宗相模宗務支所 人権研修会講師(レンブラントホテル厚木)
平成24年11月(2012年11月)	21世紀高野山医療フォーラム シンポジストとワークショップ講師 (京都市勧業館 みやこめっせ)
平成24年11月(2012年11月)	金剛峯寺主催『いのちを観じる』ワークショップ講師(金剛峯寺奥殿)
平成24年12月(2012年12月)	和歌山県精神保健福祉センター主催 ひきこもり家族教室研修会講師(田辺市民総合センター)
平成24年12月(2012年12月)	和歌山県精神保健福祉センター主催 ひきこもり家族教室研修会講師(海南保健所)
平成24年12月(2012年12月)	白浜町自殺対策事業講演会講師第1回目(白浜中学校)
平成24年12月(2012年12月)	白浜町自殺対策事業講演会講師第2回目(富田中学校)
平成24年12月(2012年12月)	和歌山県自殺対策緊急強化基金事業講演会講師(那智勝浦町被災住宅)
平成25年2月(2013年2月)	金剛峯寺主催こころの相談員養成講座講師(太融寺)

平成25年2月(2013年2月)	白浜町自殺対策事業講演会講師第3回目(白浜町公民館)
平成25年2月(2013年2月)	高野町自殺対策事業講演会講師(高野町保健センター)
平成25年3月(2013年3月)	いのち大切シンポジウムシンポジスト(和歌山ビッグ愛) 和歌山県精神保健福祉センター協賛
平成25年4月(2013年4月)	高野山真言宗寺族婦人会研修会講師(金剛峯寺)
平成25年4月(2013年4月)	かつらぎ町社会福祉協議会 老人クラブ「健康づくり事業」第1回講師 (かつらぎ町地域福祉センター)
平成25年5月(2013年5月)	金剛峯寺主催『いのちを観じる』ワークショップ講師(金剛峯寺奥殿)
平成25年5月(2013年5月)	メンタルヘルス研修会講師(国保日高病院)
平成25年5月(2013年5月)	かつらぎ町社会福祉協議会 老人クラブ「健康づくり事業」第2回講師 (かつらぎ町地域福祉センター)
平成25年6月(2013年6月)	かつらぎ町社会福祉協議会 老人クラブ「健康づくり事業」第3回講師 (かつらぎ町地域福祉センター)
平成25年6月(2013年6月)	金剛峯寺主催『いのちを観じる in Bangkok』ワークショップ講師 (バンコク)
平成25年7月(2013年7月)	近畿母子支援施設研究大会記念講演講師
平成25年7月(2013年7月)	和歌山いのちの電話研修会講師
平成25年7月(2013年7月)	和歌山県難病センターボランティア研修会講師
平成25年9月(2013年9月)	高野山真言宗島根自治教団研修会講師
平成25年9月(2013年9月)	高野山大学公開講座講師 ※本学主催
平成25年9月(2013年9月)	フジキン若手選抜道場講師(大阪)
平成25年9月(2013年9月)	和歌山人権研究所 研修会講師
平成25年10月(2013年10月)	フジキン若手選抜道場講師(東京)
平成25年12月(2013年12月)	みなべ町民生委員児童委員協議会主催 研修会講師
平成25年12月(2013年12月)	和歌山県精神保健福祉センター主催うつ病予防講演会講師
平成25年12月(2013年12月)	和歌山県臨床心理士会 研修会講師
平成26年1月(2014年1月)	那賀地域・職域メンタルヘルスセミナー 講師
平成26年1月(2014年1月)	和歌山県看護協会日高地区支部研修会 講師
平成26年2月(2014年2月)	田辺保健所主催「精神障害者家族教室」講師(野の花亭:田辺市たきない町)
平成26年2月(2014年2月)	高野山真言宗島根自治教団研修会講師
平成26年2月(2014年2月)	かつらぎ町社会福祉協議会ボランティア研修会講師
平成26年3月(2014年3月)	那智勝浦町 自殺対策講演会 講師
平成26年3月(2014年3月)	白浜はまゆう病院職員研修会講師(白浜はまゆう病院)
平成26年5月(2014年5月)	和歌山県人権同和推進研修会 講師(アバローム紀の国)
平成26年5月(2014年5月)	和歌山いのちの電話研修会講師(ルミエール華月殿)
平成26年7月(2014年7月)	高野山真言宗 平成26年度 自死者慰霊法会 講師(高野山大学黎明館)
平成26年8月(2014年8月)	平成26年度全国被害者支援ネットワーク(近畿ブロック)質の向上研修上半期研修会 講師(和歌山マリーナシティ わかやま館)
平成26年8月(2014年8月)	高野山真言宗 平成26年度 自死者慰霊法会 講師(高野山大学黎明館)
平成26年9月(2014年9月)	御坊市自殺予防研修会 講師(御坊市役所)
平成26年10月(2014年10月)	御坊市地域ダイケアサロンボランティア 講師(御坊市役所)
平成26年12月(2014年12月)	海匠地区看護協会研修会講師(海南保健センター)
平成26年12月(2014年12月)	紀南若者サポートステーションステップアップ講座講師(田辺市)
平成27年2月(2015年2月)	紀南若者サポートステーションステップアップ講座講師(田辺市)

平成27年3月(2015年3月)	白浜はまゆう病院職員研修会講師(白浜はまゆう病院)
平成27年3月(2015年3月)	橋本保健所メンタルヘルスセミナー講師(橋本保健所)
平成27年3月(2015年3月)	和歌山県臨床心理士会定例研修会講師(児童相談所)
平成27年5月(2015年5月)	四国霊場平等寺主催『いのちを観じる』ワークショップ講師
平成27年5月(2015年5月)	神戸北神仏教会研修会講師(清光寺)
平成27年7月(2015年7月)	和歌山いのちの電話相談員養成講座講師(中央コミュニティセンター)
平成27年8月(2015年8月)	紀見東中学校夏季職員研修会講師(紀見東中学校)
平成27年8月(2015年8月)	和歌山県小中学校事務職員夏季研修会講師(かつらぎ町あじさいホール)
平成27年8月(2015年8月)	第43回和歌山県更生保護女性連盟紀北ブロック研修会講師(あじさいホール)
平成27年9月(2015年9月)	和歌山母子支援施設職員夏季研修会講師(高野山大学)
平成27年11月(2015年11月)	高野山真言宗兵庫ブロック青年教師研修会(播磨)
平成27年11月(2015年11月)	平成27年度 橋本保健所難病医療講演会(橋本保健所)
平成27年12月(2015年12月)	日本スピリチュアルケアワーカー協会 公開講座講師(太融寺)
平成27年12月(2015年12月)	日本スピリチュアルケアワーカー協会 公開講座講師(太融寺)
平成28年2月(2016年2月)	健康日高21推進協議会メンタルヘルスセミナー講師(御坊保健所)
平成28年7月(2016年7月)	和歌山いのちの電話相談員養成講座講師(中央コミュニティセンター)
注記:平成13年~17年 千葉県内にて主に発達障害・スクールカウンセリング関係の講演会・研修会講師を多数行う。	
大学行政への係わり(所属委員会)	
平成22年度(2010年)	人権教育推進委員会人権研究会
平成22年度(2010年)	学生部協議会委員
平成22年度(2010年)	学生相談室担当(学生相談・心理カウンセラー)